

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名	秦野市立南が丘小学校
-----	------------

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語の「読むこと」の問題において、全国及び神奈川県平均に比べ正答率が高く、人物像や物語の全体像を具体的に想像することができています。また、記述式の問題に対しての回答率が高く、ねばり強く問題に取り組むことができています。	(1) 国語の「書くこと」の問題において、漢字を文の中で正しく使うということに課題がみられます。漢字学習をする際に、漢字を熟語として覚えたり、その熟語を正しく使った文を考え、書いたりする活動を増やしていきます。
(2) 算数の「図形」の問題では、出題された4問すべてにおいて全国及び神奈川県平均に比べて正答率が高く、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察する問題は、概ね理解できています。	(2) 算数の「数と計算」では示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題に課題が見られます。概数に関わる数学的活動を行う際には、日常の事象における場面に着目し、日常生活にも生かしていくことが必要だと考えます。
(3) 理科の「冬の天気と気温の変化」の問題では、全国及び神奈川県平均に比べて正答率が高く、9割の児童が正答しており、実験の結果や提示された情報をもとに分析して、解釈し、自分の考えを持つことができるということが分かります。	(3) 理科の水溶液や光などの記述の問題では、全国及び神奈川県平均より正答率は高いが、導き出したことを説明することに課題がみられます。授業を行う際には、調べたことやわかったことを文章にまとめたり、説明したりする学習を意図的に取り入れていきます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 学校教育目標「 自他の生命と人権を尊重し、ねばり強くたくましい、心豊かな児童を育成する 」を実現するために、学校経営の重点として「 幸せな学校 」をめざして、「 行動 」をテーマにした教育活動を行いました。主体的な学びができるよう授業や活動の場を工夫したり、ICT機器の効果的な活用を行い情報共有をしたりするなど、児童が自ら考え学ぶ力を育成してきました。その結果、いずれの教科でも思考・判断・表現の正答率は高くなりました。知識・技能を高めることでねばり強く追究する姿に繋がると考えます。
(2) 校内研究では、「相手の考えを受け入れて、自分の考えを深められる子の育成～めあて・話し合い・ふりかえり～」をテーマに取り組んできました。研究の柱を「話し合い活動」と「ICT機器の活用」の2本とし、考えや意見を交流することで理解を広げたり深めたりすること、またそのためのツールとしてのICT機器の活用を各教科の授業の中で意識的に設けてきました。自分の考えを自分の言葉で表現することへの意欲を高めてきたため、いずれの教科でも記述式での正答率が上がっています。一方で、国語の漢字・語句や算数の基礎的な理解、理科の器具や生物の知識など、教科の確かな理解に課題が見られました。
(3) 「 幸せな学校プロジェクト2021 」を行動化するため、教員と児童が共有する「 5つのチャレンジ 」を定めています。【1. 笑顔であいさつ 2. やさしい声かけ 3. 考えを伝え合い、深め合う学び 4. ICTとお友だち】の4つの目標を共有することで、教育目標をみんなで実現する雰囲気づくりを行いました。また、【5. マイ・チャレンジ】では、自分で目標を設定し、挑戦する勇気を養うとともに、自他を尊重する姿勢を育んできました。そのため質問紙では、学校生活に満足する児童や、ICT機器を有効に活用する児童が多い一方で、国語や算数を好きだと答える児童が少なく、興味や関心を高めるための授業づくりはこれからの課題であると考えます。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 知識・理解(漢字・理科の実験用具や器具名など)について、過去の確認テスト等との正答率を比べると明らかな低下がみられました。普段使わなければ記憶や知識は薄れていくものですが、見方を変えると教科の学習が勉強のための勉強になっているとも捉えられます。教科の学習と実生活が結び付き、繰り返し使われる場面を設ける必要があります。昨年度に引き続き、教科の合科的・横断的な取り組みを進めていきつつ、生活科や総合的な学習の時間で教科の学習が活かされる場面を意図的に設定していきます。
(2) 本年度の校内研究では「 自分の考えや思いを表現しよう～書いて発見、私の思い編～ 」というテーマを設定しました。昨年度の研究の取り組みや今回の学力・学習状況調査結果から、伝えようとする思いを持ち、行動に移しているかという点では成果が表れているものの、深められていたか(表現の豊かさや正確さ)という点には課題が感じられました。そこで様々な場面で書くことを意識し、疑問や気持ちとのずれを感じるようにしていきます。更に表現の幅を広げ、より適当な言葉を選べるように、語彙力を高めることを目指し学年や成長段階に合わせた効果的な取り組みについて実践・検証していきます。
(3) 「 幸せな学校プロジェクト 」の中で大きな変更点は5つのチャレンジのひとつ、 伝え合い(2021) から発展し、互いの考えや思いを受けとめながら 語り合う (相互作用)の部分です。また、校内研究においても「 書く(本年)⇒声にのせる⇒通じ合う心 」と段階的にテーマを設定しています。このように教育水準の向上に向けて大切にしていきたいのは、1年限りではなく中長期的な目標を掲げながら全体で共有し、意識していくことですので、教職員のみならず児童とも目標を共有しながら学校全体の成長を促していきます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

質問紙の結果から、「人が困っているときは、進んで助けてあげたい」という気持ちや、「人の役に立つ人間になりたい」という思いが育まれていることが分かります。一方「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」の質問では、全国平均を下回っており、新しいことへ挑戦することに苦手意識を持っていることが伺えます。そこで、日頃より結果だけを重要視するのではなく、課題に向かう過程を大切にしながら教育活動を行っていきたくと考えます。また、学習の中でPC・タブレットなどを使う機会が多く、ICT機器を使うことは勉強に役立つと考えている児童が多くなる事が分かります。今後もICT機器を使ったりいろいろな学習形態を授業の場面に応じて取り入れながら、課題を解決する力を養っていきたくと思います。
